大本山永平寺

眼蔵会

緑樹の風薫る好時節、今年も恒例の「眼蔵会（げんぞうえ）」が催されます。

道元禅師の御書である「正法眼蔵」は難解な文章ですが、理解しようと理屈だけで頭脳を働かせると『眼蔵学』という学問だけが先行してしまいます。

この御書は修行とは何か、悟りの世界とは何かを道元禅師ご自身が体得されたことを余すことなく、欠くることなく縦横無尽に述べられたものです。佛祖が示された標準に道元禅師は徹底して自己を重ね続けられました。

修行道場は文字通り「行」を重んじます。道元禅師の示される「行」を私どものこの体を使い、心を働かせ真似てゆくことが、すなわち仏祖の標準に適うのであります。

修行を続けなければ御書は分かりません。学問としての取り組みは大切です、しかし同時に活き活きとした指南書にするかしないかは修行僧の志に左右されるのでしょう。碩学、行持綿密の講師が、道元禅師の総てをお伝えくださいます。

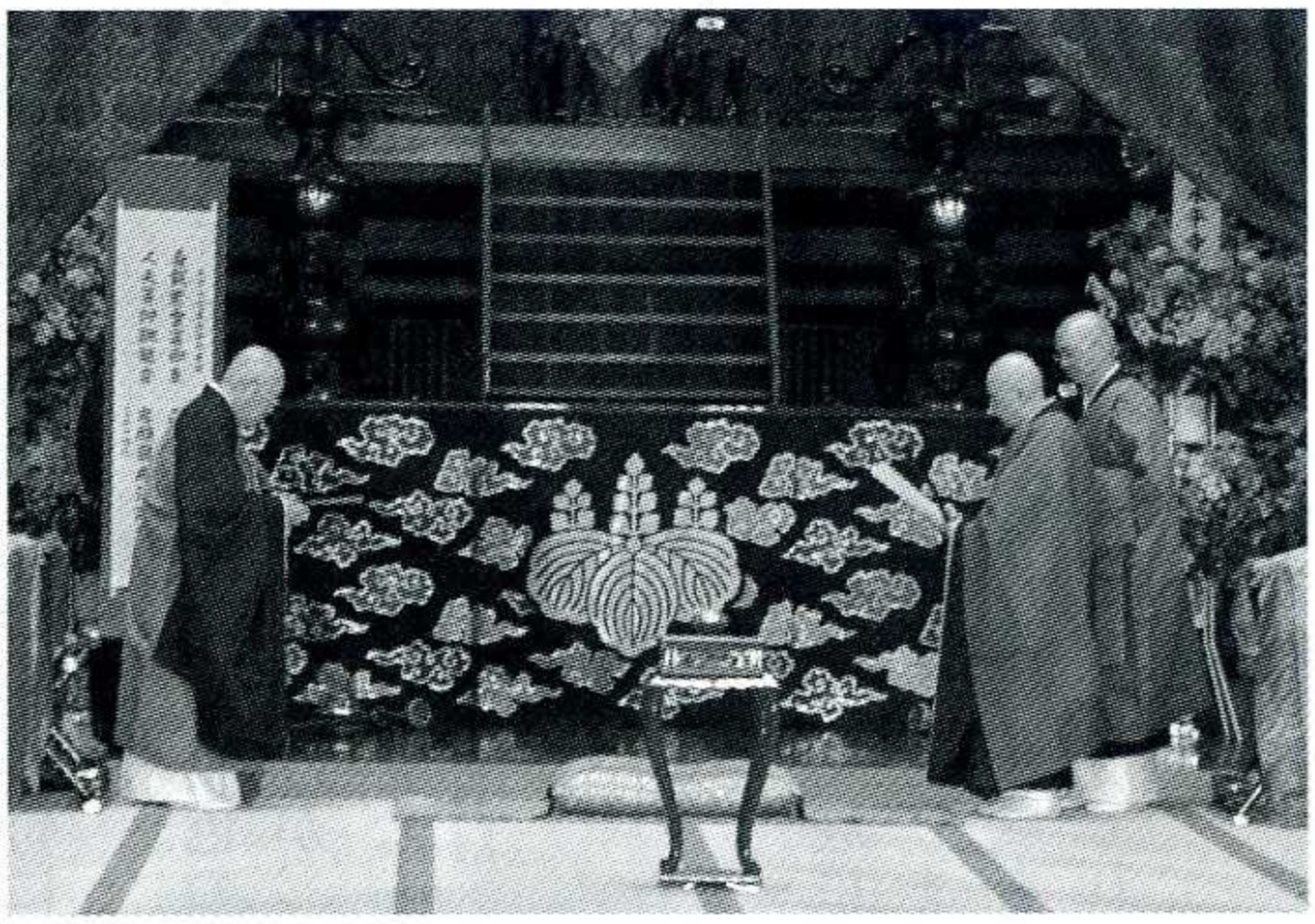
大本山總持寺

去る四月十六日に退董式、四月十七日に晋山式が粛々と厳修されました。退董式では、大道晃仙禅師が、本山で縁を結ばれた多くの人々の前でお別れの御挨拶をなさいました。また式の最後には、新禅師さまと堅く握手をされました。そして皆の拍手に送られて、八年半お勤めされた本山を後に、能登の大本山總持寺祖院へと向かわれました。

晋山式では、鶴見への御移転以来特に縁の深い成願寺を出発された江川辰三新禅師が、午前八時三〇分に三門に到着されました。力強い足取りで、ゆっくりと参道から向唐門をくぐられてお進みになり、諸行持に臨まれました。本山に縁のある多くの人々が、新禅師さまのご上山を心から歓迎いたしました。

最も印象的だったのは、大本山永平寺の福山諦法禅師がお祝いのご挨拶を述べられた場面です。両本山共に歩む姿をしっかりと確かめることができました。そして最後に、新禅師さま御導師で東日本大震災被災物故者追悼諷経が厳修されました。

新禅師さまをお迎えした本山は、いま新たな一歩を踏み出したばかりです。



曹洞俳壇

選・村松五灰子

セーラー服試着してみる雛座敷

宮城県　木村とみ子

評　お雛さまたちに見守られて育った娘さんがセーラー服を着る年齢となった。真新しい制服の試着。本人や家族の昂ぶりに雛壇の前でお披露目。お雛さまたちの喜びの、どよめきが聞こえてくるようだ。

春の宵お面を被る児に出合ふ

新潟県　森村　ひろ

評　春のけだるさもある宵。なんと向こうからお面を付けた幼い子が来る。突然のことに一瞬の僅かな驚きと動揺。そんな様子が読み取れる句。朧気な雰囲気も良い。

預金しておまけに貰ふ種袋　北海道　福島　眞也
明星に跨ぐ遍路の国境　東京都　伊奈　三郎
春蘭の中より光さすごとく　愛媛県　井上　征郎
しばらくは話のとぎれ梅の白　静岡県　村松　保子
ホーム掃く駅夫に桜吹雪かな　秋田県　松山　蕗州
凍解の風の沸き立つ棚田かな　岩手県　鈴木　道昭
一月や戦没慰霊ビルマまで　神奈川県　佐藤冨美子
雛の顔また逢へるかな独り言　北海道　幸坂　好子
一憂の去らぬ余寒の坐禅かな　和歌山県　田﨑よし子
野菊咲くまた歳月を継ぎにけり　愛知県　永井　幸子

＊選者吟

万緑や矢っ張りさっきと同じ道　五灰子

＊作句小見

この度の東日本大震災で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。当俳壇に投句される多くの方が東北にいらっしゃいます。ご無事をお祈りいたします。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

食べたしと無性に思う日のありて味噌おむすびを握りていたり　北海道　岡安　一五

評　誰にでもなつかしい味というものがある。作者にとっては味噌味のおむすびであった。幼い頃、母に握ってもらった味なのかも知れない。味覚そのものを刺激しながら、それに付随する思い出をも想起させる作品である。

確実に日脚伸びたり三人目を身籠りて孫のお腹ふっくら　山形県　多田　さよ

評　春分の日を過ぎると昼間の時間が長くなる。季節の推移とお孫さんのお腹で着実に成長している生命とを対比させ力強い。明るい明日を予祝するかの如きである。

一陣の風に鳥影よぎりたる母の忌日をひつそりとゐる　北海道　石森美恵子

ベランダに二十四個の柿吊るす洗濯物を少しずらして　大阪府　西口　節子

視野狭く生きて六十路の誕生日孫が顔描き祝ひてくれぬ　岐阜県　杉山　洋子

杉檜安値にあれど祖よりの継ぎ来し山はおろそかならず　宮城県　荒川　庄助

虚ろなる存在の影がしんとある錆びつきそうなシャッター街に　山口県　浜田　道子

金比羅の長き石段のぼり来て遠くのぞめば四国連山　山口県　中井　清子

雪被く磐梯山の御鏡となりてしづもる紺碧の湖（うみ）　福島県　大槻　弘

白梅が咲き初めたる一枝を墓前に供ふ小雪降る中　山梨県　北村　富子

涅槃会の団子作りの帰りがけいよいよ冷えて雪催いなり　愛知県　深谷ハネ子

十字架のかたちとなりて鳥の群れ春の海原すれすれに飛ぶ　福岡県　三吉　誠

＊選者詠

原発の由々しき事態告げる報　聞きつつ術（すべ）なく髪洗うなり　ちづ

＊作歌小見

この度の東日本大震災の被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。いつも本歌壇に投稿してくださる方々からのお葉書がなく、御無事をお祈りするのみです。変わることのない日常の大切さを有難さを改めて実感する毎日です。